

# 酸化分解性マルチの実用性確認試験

JAサロマ

佐呂間町農協 南瓜部会



左:試験品 右慣行品(6月24日撮影)



慣行品(6月24日撮影)



試験品(6月24日撮影)



慣行品(8月17日撮影)



試験品(8月17日撮影)



すき込み後(10月6日撮影)

## 試験目的

酸化分解性マルチの効果確認

## 試験作物 及び品種

南瓜

## 試験資材 及び数量(規格)

畑楽マルチ(0.018mm×80cm×400m) 半透明 無孔 1本

## 慣行資材

コーンマルチⅡ(0.015mm×80cm×400m) 透明 無孔

## 栽培方法

定植日	5月29日	収穫日	9月1日
【栽植密度】	畝幅:3m	株間:80cm	

## 資材使用期間

5月29日～9月1日

## 試験区面積

1.2反

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

展張作業については大きな問題はなかった。一部でコーンマルチの方が伸びやすく、展張の際に圃場に凸凹があると左右どちらかに土がうまくかからないという声もあった。

すき込み作業においては慣行品と比較して遜色なく行うことができた。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

6月中旬の巡回時点では、若干ではあるが試験区の方が生育がいいように見られた。その後は生育に差は見られず、最終的な収量も変わりはない。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 試験品は慣行品よりも分解が遅いため、雑草にマルチを破られることがなかった。雑草が少ない圃場なら分解が早くても問題はないが、試験区では雑草の多さが目立つため、雑草を抑えられたことは良かった。

【問題点】: 分解が慣行品よりも遅いため、残渣によりどのような影響が出るのかを注意して観察していきたい。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

試験品は慣行品に比べ分解が遅い。慣行品は8月巡回時点で分解が進んでおり、ほとんど崩壊してる箇所も見られた。試験品では、まだ伸びがある状態だった。

### (5)促成・抑制効果について

雑草については試験区では抑えられていた。慣行区はマルチが破られ雑草が目立っていた。

## モニター感想

試験品は慣行品と比べてもほとんど問題なく作業を行えた。

雑草の抑制に関しては、試験品の方が強度が残るため、収穫時期まで雑草を抑えられたのはとても良かった。また、試験品ではピッチマークが40cm間隔であるため、株間80cmのこの圃場では使用しやすい。

今後も継続して使用したい。

## JA担当者の感想(生産資材係 橋本 氏)

当地区ではマルチの分解の速さよりも、雑草の抑制に対しての効果を期待しているため、今回の試験品ではよく抑えられて良かった。作業性や生育に関しても慣行品と比較してもほとんど変わらないため、価格面も考慮したうえで継続して使用したい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

1 農プロフィルム

2 マルチ

3 不織布

4 育苗資材

5 トンネル資材

6 防虫ネット

7 酪農資材

8 ICT機器

9 その他